

飛騨市社会福祉協議会

福祉協力校だより

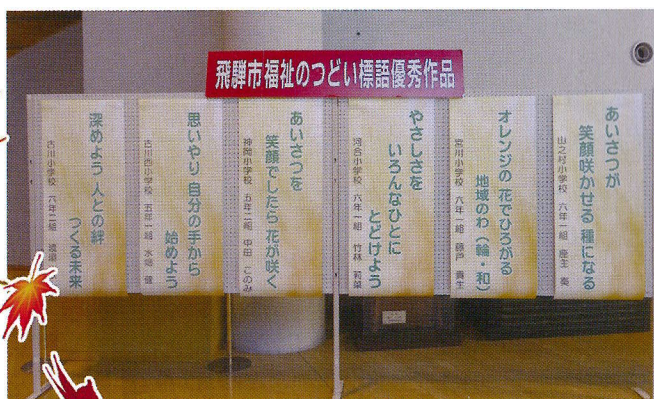
令和7年12月15日発行



「飛騨市社会福祉協議会 福祉のつどい」の様子

令和7年11月29日(土)に、飛騨市文化交流センターで福祉のつどいを開催し、第一部は市内中学生による福祉意見発表と市内小学生の福祉標語優秀作品の紹介、第二部は映画「35年目のラブレター」の上映を行いました。

福祉意見及び福祉標語の優秀作品を5ページから8ページに掲載しています。



Contents

福祉協力校とは

P2

各学校活動紹介

P3

出前講座・ボランティア体験報告

P4

福祉意見優秀作品

P5~8

福祉標語優秀作品

P8

地域の人と共に

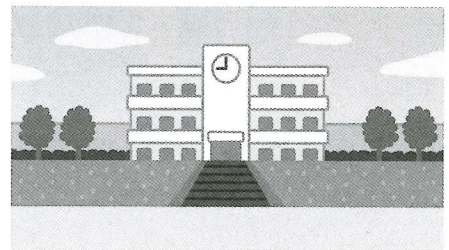
ふだんのくらしのしあわせ

の根を広げよう♪♪

私たちが住む飛騨市で誰もが幸せに暮らすためには何をしたらいいか。ふだんのくらしの中の生活課題を解決していくためにはどうすればいいのか。様々な人と共に考え、様々な体験を通して、共に生き支えあえる地域づくりを進めています。

福祉協力校とは？

飛騨市社会福祉協議会では、児童・生徒の皆さんが、ボランティア活動や日常の身近な福祉活動を行う中で、社会福祉への理解と関心を高めることなどを目的として、市内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校を「福祉協力校」に指定し、校内での福祉活動や地域に根ざした活動の実践を支援しています。



福祉のつどい
福祉意見発表
福祉標語掲示

助成金の交付

出前講座の
実施

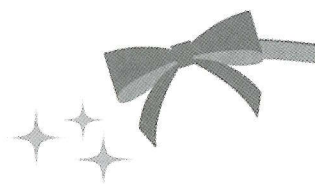
連携をとりながら事業を実施

ボランティア
活動の推進

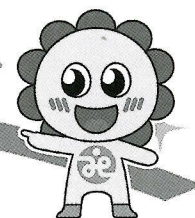
地域との交流

【福祉協力校一覧】

飛騨市立古川小学校・飛騨市立古川西小学校・飛騨市立河合小学校
飛騨市立宮川小学校・飛騨市立神岡小学校・飛騨市立山之村小中学校
飛騨市立古川中学校・飛騨市立神岡中学校
岐阜県立吉城高等学校・岐阜県立飛騨神岡高等学校・岐阜県立飛騨吉城特別支援学校



福祉協力校 福祉関連の活動計画



古 川 小 学 校	●福祉団体の活動内容や飛騨市の現状について学習 ●ペットボトルキャップの収集活動 ●山ゆり学園の種苗を花壇やプランターで育てるなど校内環境整備 ●特別支援学校の児童と居住地交流、学校間交流
古 川 西 小 学 校	●校内美化(花壇、学年畑) ●各学年の交流活動(保育園、地域、おあしす学級) ●福祉活動(体験、講話、ベルマーク・アルミ缶・ペットボトルキャップ回収と寄付)
河 合 小 学 校	●地域の伝統行事(盆おどり、太鼓、歌舞伎)継承活動 ●地域の方と運動場の草取り ●地域の方とふるさと大運動会
宮 川 小 学 校	●地域に伝わる民話を題材とした版画カレンダーの作成、地域の伝統文化を学習 ●版画カレンダーを地域の方に配布・交流
神 岡 小 学 校	●飛騨市の福祉の現状について学習 ●神岡振興事務所見学、施設内の工夫、バリアフリーについて学習 ●福祉体験教室 ●花壇、鉢花設置等による学校の環境整備
山 之 村 小 中 学 校	●地域の方との交流活動 (運動会、文化祭、雪上運動会、ふるさと学習等)
古 川 中 学 校	●校内及び地域の清掃ボランティア活動 ●校内の環境整備、花壇及び花鉢整備 ●小中高特交流の挨拶活動 ●リサイクルゴミ袋づくり 他
神 岡 中 学 校	●キバナコスモスの植栽を通した認知症啓発活動 ●通級指導教室における個の特性に応じた支援 ●総合的な学習における福祉活動
吉 城 高 等 学 校	●和光園との交流、和光園の清掃活動・雑巾寄付、年賀状プレゼント ●花壇整備 ●認知症VR体験、認知症サポーター養成講座
飛 騨 神 岡 高 等 学 校	●双葉保育園との交流会 ●神岡地区給食サービス事業への協力 ●たんぽぽ苑でのボランティア活動 ●交通安全キャンペーン 他
飛 騨 吉 城 特 別 支 援 学 校	●殿町青龍会との交流(夏まつり、餅つき交流会、花の苗植え交流) ●当校の児童生徒の様子を地域の人に広く知ってもらうために写真展や作品展

出前講座・ボランティア体験等 実施報告

実施日	内 容	学 校 名
5月7日(水)	福祉とは何か	古川西小学校4年生
5月22日(木)	福祉とは何か	古川小学校4年生
6月5日(木)	福祉とは何か、飛騨市ではどんな福祉が行われているか	神岡小学校5年生
7月6日(日)	飛騨市福祉・ボランティアフェスティバル 赤い羽根共同募金 募金ボランティア	古川中学校 神岡中学校
10月6日(月)	音訳ボランティアについて 講師:湯ノ下 葉子氏	飛騨神岡高等学校
10月15日(水)	高齢者疑似体験、車いす体験	古川西小学校4年生
10月16日(木)	高齢者疑似体験、車いす体験	神岡小学校5年生
12月9日(火)	高齢者疑似体験、車いす体験	古川小学校4年生
12月11日(木)	視覚障がいについて、盲導犬について 講師:下梶 宮子氏	古川小学校4年生

※12月以降は実施日が決まっているものを掲載しています。(12月1日現在)

古川小学校「ゆとり時間」を活用したボランティア活動



本会では、古川小学校「ゆとりの時間」を活用し、子どもたちと一緒に折り紙などを使った「季節の装飾づくり」や「カレンダー作り」「レクリエーション」を行っています。活動中は子どもたちの笑顔があふれ、参加ボランティアの皆さんとの温かい交流の場となりました。完成した作品は「介護医療院たかはら」へお届けし、施設の皆さんにも季節の彩りを楽しんでいただきました。

飛騨神岡高等学校

「暑中見舞はがき」をありがとう

7月24日(木)、飛騨神岡高等学校で「生活と福祉」を選択している生徒を代表して、長瀬桜花さんが暑中見舞はがき75枚を届けてくださいました。

いただいた暑中見舞はがきは、神岡地区給食サービスのお弁当に添えて、利用者の方に届けました。



令和7年度 福祉意見 優秀作品

福祉に対する意識を高めるとともに、福祉の心を育てることを目的に、飛騨市内の中学生の福祉意見を募集しました。その中から優秀作品をご紹介します。



挨拶で広げる「心のバリアフリー」

飛騨市立古川中学校三年 吉村朝澄空

みなさんは「心のバリアフリー」という言葉を聞いたことがありますか。心のバリアフリーとは、障害や年齢、考え方などが違う多様な人々が、お互いを理解し、助け合うことを指します。誰もが暮らしやすい社会を作るために、私はこの心のバリアフリーの考え方を、「これからの社会を作っていく若者」に、もっと理解してもらいたいと考

えています。私たちはやがて地域や社会を支える中心的存在となっていくと思います。私たちが相手の立場や考え方を互いに尊重し合える大人になっていれば、誰もが自分らしく、安心して笑顔で過ごせる世の中になっているはずですよ。そのために、今のうちから「心のバリアフリー」の考え方を身につけることが不可欠だと考えます。

しかし、今の社会では、若い人たちに「心のバリアフリー」が十分に理解されていないと感じます。ニュースを見ると、誰かが傷ついたり、偏見に苦しんでいたりの記事を目にするからです。国土交通省の調査では、心のバリアフリーを理解している若者は、



わずか全体の13%しかいませんでした。

では、心のバリアフリーを実現するために、私たちにできることは何でしょうか。

それは、まず身近な人とのつながりを大事にすることです。例えば、困っている人に「大丈夫ですか」「何かお手伝いできることはありませんか」と声をかけたり、車いすを使っている人に手を貸したりすること。これらは大きな一歩となります。しかし、それはなかなか勇気があることかもしれません。だからこそ私は、誰もができるつながりづくりは「挨拶」だと考えます。挨拶は誰にでも気軽にでき、「あなたのことを大切に思っていますよ」という気持ちを伝えることができるからです。私も自身も挨拶を大切にしてきました。

友達や先生、家族などと笑顔で交わす挨拶は、心が温かくなります。だから、私は中学校で生活・福祉委員長として挨拶を広める活動をすることにしました。そして、「もっとみんなが安心できる学校を作る」ことを目標に、毎朝の挨拶活動に力を入れました。その中で、「挨拶を交わすことはお互いに安心感が生まれ、学校が明るく過ごしやすい場所になる」と全校生徒

に伝えてきました。

実際に活動してみると、学年や性別、得意なことや苦手なことが違って、挨拶を交わし合うことで、心が少しつながったという実感がありました。そして、挨拶は互いを理解し尊重する「心のバリアフリー」につながるのだと確信しました。

私の家の近くには、視覚障害者の方が住んでいます。その方はいつも白杖を持ち歩いています。以前の私は、その人を見ると「目の見えない人は大変そうだな」としか考えていませんでした。その方とすれ違う時、「年が離れているし、気まずいな」「目の見えていない方に挨拶をしたら、かえってびっくりさせてしまわないかな」と考え、挨拶をしようと思ってもなかなかできませんでした。でも、学校での挨拶活動を通して挨拶が「心のバリアフリー」につながることを実感した私は、「行動に移さないと」と考えました。そして勇気を出し、挨拶をしました。緊張し、いつもより小さな声での挨拶でしたが、相手の方にはしつかりと思いが届き、会釈を返してくれました。同じ地域に住み、顔も合わせていたのに、年代の違いや障害の有無で、とても遠く感じていたその方と、心がつな

がり、距離が近くなった気がしてうれしく思いました。勇気を持って挨拶をしてとても良かったと感じた経験でした。一度挨拶をしてからは、その方との挨拶がごく普通になりました。しかし、最近はすれ違うことが少なくなつたので寂しいし、「お変わりないかな」と心配になります。でも、そうやって相手のことを考えているこそが、私と相手の心の壁がないことの証明だと思います。

「心のバリアフリー」は、人とのつながりを大切にすることです。困っている人に声をかけたり、手を貸したりすることは、一見難しいことに思えます。でも、今なら、私は挨拶を交わしているあの視覚障害者の方が困っていたら、きつとすぐに声をかけられると思います。挨拶を大切にすることを通して、挨拶が心の壁を越え、真の「心のバリアフリー」を実現する力を持つていると実感しています。私は古中生として、「心のバリアフリー」の実現につながる挨拶を大切に近づけます。どうか地域の方にも、私たち中学生を見かけたら、気軽に挨拶をしてほしいです。そして、挨拶を通して、違いを超えてみんながつながる、「心のバリアフリー」が実現した地域を目指します。



福祉に関わる人も幸せに

飛騨市立古川中学校三年 建村唯羽



介護福祉士とは、介護を必要とする方の日常生活を総合的に支援する仕事です。介護福祉士の人数は年々増えているものの、離職率一五%と高いです。また、障がい者施設では利用者二人に対して約一・七人、老人ホームでは三人に対して一人以上介護福祉士がつかないといけないと言われている中で、二〇二五年は二十五万人足りないというのが現状です。では、なぜ介護福祉士が足りないのでしょうか？その背景には、少子高齢化による、利用者の増加、働き手の減少、政府も対策はしているものの、給料が上がらないこと、肉体労働や、長時間労働などが挙げられるそうです。私の母も、障

がい者施設で介護福祉士として働いています。母は約三十年この仕事をしています。ある時、母に、「なぜずっと仕事を続けられたの？」と聞くと、まづ口から出たのが、「楽しいから」という答えでした。利用者さんが一日穏やかで過ごせた日や、利用者さんに気持ちよく過ごしてもらえるように、考えた案がハマった時、そんな時が楽しいといいました。それを聞いて、私は「楽しい」だけでそんなに続けられる仕事ではないのに、それでも、「楽しいから」「自分が選んだ仕事だから」と言っていて続けられる母を尊敬しています。「もっと楽な仕事に変えればいいのに」と思った自分をすごく恥ずかしく感じました。

そんな母ですが、時々すごく疲れた顔をして帰ってきます。母の職場でもやっぱり人手がたらず、一人ひとりの負担が大きくなり、定時に帰れることが難しくなっているそうです。家に帰り、疲れ切った表情の母を見ると、私は「楽しくて、やりたくて始めた仕事

かもしれないけれど、そんなになつてもやりたいの？」と思うし、「もっと休まなきゃ、体が壊れてしまうんじゃないか」とすごく心配になります。

私は、一歳から保育園を利用しています。小さい頃はよくわかっていませんでしたが、仕事で忙しい母は、私が朝起きてもないこと、保育園にも迎えにきてくれないこと、そんなことが日常茶飯事でした。仕事を頑張る母を「かっこいい」と思う反面、「なんで私のお母さんは、みんなと違うのだろう」と寂しい思いもありました。

当時のことを思い出して話すと、母も他のお母さんが当たり前にしている、毎日ご飯を作ることや、毎日一緒にお風呂に入ること、毎日おやすみと言って一緒に寝ること、毎日おはようと言つて私たちを、学校に送り出すことなど、世の中のお母さんが当たり前にしていることをしてあげられなかったことが、すごく辛かったそうです。

それを聞いて、わたしは母の「優しさ」が「犠牲」に変わってしまったことに気がつきました。人のために働くことはすごく素敵なことで、みんながみんなできることでは無いから、介護に携わる人を私は尊敬しています。しかし、「自分自身の時間」家族との

時間」など、「多くを犠牲にしてまで働く」ということは本当に幸せと言えるのでしょうか。

こういったことから私は、福祉の仕事が「やりがい」だけではなく「働きやすさ」も大事にされる必要があると思います。福祉を支える職員が安心して、働く環境がなければ結果的に利用者さんにも影響が及んでしまいます。福祉は、「支え合い」の社会を作るもの、だからこそ、利用者だけではなく、それを支えていく人たちにも目を向けていく必要があるのではないのでしょうか？

このままだと、人手不足がさらに深刻化し、一人一人の負担が今よりも増え、心身ともに疲弊し、「続けたくても続けられない」人が増えると思います。そして、それによって専門的なケア

ができなくなり、自信をもって「みんなが幸せになるための福祉」とは言えなくなってしまうかもしれません。

私は将来、まだ何になりたいなど決まってはいません。しかし、私は、尊敬する母のように人のために頑張れる人になりたいです。自分の仕事に誇りをもてるような人になりたいです。そして、母や福祉に関わる人がもつと自分のことや家族のことを大切にし、笑顔でいてほしいと思っています。福祉という言葉には、「幸せ」や、「豊かさ」という意味が込められています。ならば、その幸せを一部の人だけではなく、福祉に関わる全ての人に届けられるものであつてほしいと私は思うのです。福祉に関わる人、みんなが幸せになれる社会。そんな未来を私は心から願っています。

高齢社会と僕たち

飛騨市立神岡中学校二年 下田 素生



皆さんは、高齢者に対して、どのようなイメージをもっていますか？僕は、「やさしい人」「穏やかな人」というイメージがあります。その印象が強いのは、きっと、僕の曾祖母がそんな人

だったからでしょう。僕の曾祖母は、91歳まで一人で生活していました。僕が曾祖母に会いに行くとき毎回すぐに玄関まで来て「いらっしやい。」と優しく語りかけてくれることが今でもずっと



心に残っています。

しかし、年齢を重ねるにつぎ体力が衰え、一人で生活することが難しくなっていました。そして、養護老人ホームに入居する事になりました。時々、僕が曾祖母に会いに行くと、穏やかで安心した顔で迎えてくれたことが嬉しかったです。高齢者福祉施設があることによって、高齢者の方々も、その家族である僕たちも、安心して暮らせるんだなと感じました。

僕は今、祖父と祖母と一緒に暮らしています。両親が働いているので、学校から帰ると祖父母が「おかえり。」と迎えてくれます。

毎日の朝は祖父母のおはようから一日がスタートします。そして寝る前のおやすみで一日が終わります。それが自分の一日の始まりと終わりです。こんな些細なことでも切り替えがつけられるので、平日はその挨拶だけで気

持ちよく生活することができそうです。

僕にとって二人は、安心できる存在です。僕の祖父母は健康に生活していますが、高齢者の中には、僕の曾祖母のように、介護が必要な方もいます。高齢者も、僕たちのような未成年も幸せに暮らすためには……？僕は、高齢者の福祉について考え始めました。

今は少子高齢化で高齢者福祉の需要が高まっています。高齢者の介護を自宅で行えない場合は、養護老人ホームという施設を利用します。養護老人ホームとは、65歳以上の高齢者が自立した生活を送れるように支援する施設です。神岡町にも、「たんぼぼ苑」があります。

しかし、このような高齢者施設にも課題があります。介護人材の不足、ケアの質の問題、運営上の課題などが挙げられます。介護人材の不足では現在、介護職員の不足が深刻です。離職率の高さや新規採用の難しさが課題です。ケアの質の課題では、介護職員の負担から、十分なケアが提供できない事が挙げられます。

運営上の課題としては、施設の倒産や介護難民の増加、介護保険制度による報酬単価の低さ、医療ケアでの対応など経営の面での多くの問題が浮

上しています。この三つの他にも今問題になっている高齢者虐待や財源の問題、入居者の心理的な問題など多くの課題が山積みです。しかし、このような課題があっても高齢者施設があり続けるのは、現在の暮らしに必要な不可欠なものだからと考えます。

ところで皆さん、「高齢化率」という言葉を存じですか。これは総人口に占める65歳以上の高齢者の割合がどれだけか、という数字です。日本全体でみると、高齢化率は29・3%ですが、神岡町は47・2%です。二人に一人は高齢者、という状態です。僕はこの事実を知って、福祉の重要性を強く感じています。そして、他人事ではなく、神岡に住む僕たちが向き合っていくべき課題だとも感じています。

僕にできることは、祖父母ともっと関わったり、地域のイベントやボランティアに参加したりすることくらいしかありませんが、僕がこうやって話すことで、多くの方に高齢者に関わる福祉について関心を持ってもらえたら嬉しいですよ。



福祉標語優秀作品

市内各小学校から募集した福祉標語の優秀作品をご紹介します。

あいさつを
笑顔でしたら
花が咲く



飛騨市立神岡小学校5年
中田 このみ

思いやり
自分の手から
始めよう



飛騨市立古川西小学校5年
水畑 健

深めよう
人との絆
つくる未来



飛騨市立古川小学校6年
渡邊 歌

あいさつが
笑顔咲かせる
種になる



飛騨市立山之村小学校6年
座主 奏

オレンジの
地域のわ(輪・和)
花でひろがる



飛騨市立宮川小学校6年
藤戸 貴生

やさしさを
いろんなひとに
とどけよう



飛騨市立河合小学校6年
竹林 莉菜

福祉協力校だよりについてのお問い合わせは

飛騨市社協 検索

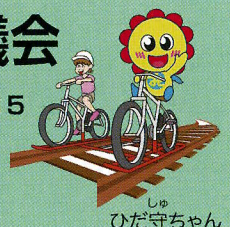
社会福祉法人飛騨市社会福祉協議会

TEL0577-73-3214 月曜日～金曜日(祝日除く)8:30～17:15

〒509-4221 飛騨市古川町若宮二丁目1番60号 ハートピア古川内

■URL <http://www.hidasi-syakyo.net/> E-mail : info@hidasi-syakyo.net

*この機関紙は、赤い羽根共同募金の配分により発行しています。



ひだ守ちゃん